

せいらんそう

第56号

2024.1



事業所トピックス 青嵐荘路のとう舎より (P7掲載)

Contents

- P 2 勤続30年を迎えて
- P 3 芳香会で長く続けていること
- P 4・5 ロボットや業務省力機器、今どうしてる？
- P 6 外国人労働者の挑戦
- P 7 事業所トピックス
- P 8 芳香会活動報告
芳香会スケジュール
編集後記



養護老人ホーム リサイクル活動 (P3掲載)

祝 勤続30年を迎えて



青嵐荘落のとう舎
施設長 落合幹彦

『 勤続30年に思う 』

「光陰矢の如し」とは良く言ったもので、平成4年に中途採用で入職し、早30年が経過しました。

思い返すとあっという間の30年でしたが、その間数々の貴重な経験や学ぶ機会を得られたことは、私の大きな財産となっております。とりわけ平成7年1月に発生した阪神淡路大震災での炊き出し支援は、最も貴重な経験となりました。震災発生後間もなく法人で支援チームが結成され、その一員に加えていただきました。現地では炊き出しのお手伝いや被災の状況を見聞きし、たくさんの気づきや学びを得ました。そして支援を通し「困っている人にすぐに手を差し伸べるこの芳香会でずっと働く」という決意が芽生えたこと、その時の思いが今も尚仕事を続ける上での原動力となっていることを考えると、まさに得難い、かけがえない経験であったといえます。

思えば長い歳月を楽しく仕事に打ち込めたのも、理事長をはじめ上司や先輩、同僚や後輩の皆さまの大きな支えのおかげと、心から深く感謝申し上げます。

今後の目標ですが、管理者として施設の経営・運営はもとより、利用者の権利擁護、サービスの質の向上に注力していきたいと思います。また次代を担う人財

の育成も大きな役割ですので完遂したいと思います。職業人として働ける時間に限りはありますが、「一寸の光陰軽んずべからず」を肝に銘じ、微力ながら精一杯努力を続けていく所存です。



芳香会病院青嵐荘療育園
非常勤薬剤師 初見仁子

『 薬剤師としての仕事の変化 』

長年、療育園で薬剤師として勤務してきて、振り返ると薬局での変遷に感謝しています。仕事の一環として、薬品を薬包に分包する作業は非常に重要です。最初は分包機に印字機能がなく、薬包に「朝・昼・夕食後」のスタンプと手作業で色分けをしていました。しかし後に、分包機に印字機能が追加され、日付や氏名、薬品名などが印字可能になりました。最新のものでは色付けも可能で、作業効率が大幅に向上しました。以前は薬袋に7日分の薬包を入れて提供していましたが、今は1回分ずつ細かく分けて全員の1週間分を投薬台車にセットし、個別に提供しています。この変化により、より適切な薬剤提供が可能になりました。さらに、パソコンの導入により在庫管理や発注が効率化され、ネットオーダーサービスの開始で注文手続きもスムーズになりました。電子カルテの利用も加わり、薬局側でも状況把握が容易になり、調剤作業がより迅速かつ正確に行えるようになりました。昨年、新しい施設が完成し、薬局での作業環境が快適になりました。これまで続けられたのは、周囲のサポートと

の連携があったからこそだと感謝しております。課題は常に存在しますが、安全で信頼できる薬の提供を維持するために、今後もスタッフと協力し、取り組んでいく覚悟です。



★職員勤続年数内訳★

1年未満	34名	20年以上25年未満	53名
1年以上3年未満	60名	25年以上30年未満	12名
3年以上5年未満	66名	30年以上35年未満	5名
5年以上10年未満	105名	35年以上40年未満	4名
10年以上15年未満	80名	40年以上	2名
15年以上20年未満	67名	合計	488名

※R5.12.1現在

平均勤続年数は
10年2ヶ月
となっています。



特集 芳香会で長く続けていること

10年以上継続して行っていることがある事業所をご紹介します☆

22年

【落のとう舎 循環させる資源】

平成13年につくし園・落のとう舎共同で生ごみ処理機を導入してから22年が経過しました。生ごみにおからや発酵菌を投入し、攪拌することで堆肥に生まれ変わります。出来た堆肥は、養護老人ホームや落のとう舎での野菜作りに活用し、収穫した野菜は各所へ販売したりご利用者の食事の一品としています。食べた食物の残りが再び堆肥となり、新しく美味しい野菜を作っていきます。

生ごみは約80%が水分であるため、焼却時に多くのエネルギーが必要となるそうです。生ごみを「ゴミ」ではなく「資源」と捉え、循環させていくことは、SDGsに繋がります。

堆肥を使用したい方は是非お声かけください。



13年

【養護老人ホーム リサイクル活動】

養護老人ホームでは平成22年からリサイクル活動としてペットボトル分別作業と牛乳パックから紙を作り出す紙漉き活動に本格的に取り組み始め、13年が経過します。開始当初は数名の参加者のみでしたが、今では12～13人の方が活動されており、それぞれ週2回ずつの活動は生活の中の日課として定着しています。作業は個々のペースで取り組まれ、集中して黙々と作業する方、のんびりと作業する方、隣の方と互いに協力して作業される方など、作業に取り組む姿勢は様々です。

「テレビばかり観ているより、ちょっとでも体を動かしていたほうがいいね」との声も多く、自分の役割ややりがいとなることがあるということが生活の張りにつながっているのだと思います。1人ではなく皆で協力して取り組んでいることが細く長く続けることができたコツなのかもしれません。



【たま保育園 つくば登山】

37年

たま保育園では、秋に年長児が「つくば登山」に出かけます。「友だちと励ましあいながら頂上を目指し、最後までやり遂げた達成感・喜びを共感し合う」というねらいを持ち、継続して行っている活動です。集中力、やり抜く力、行動力、思いやりなど、非認知能力を育む機会になっています。毎年実施しているので、年下の子どもたちは、「さくら組になったら、つくば山に登る」という、進級への期待と目標を持つことが出来ているようです。

便利な時代へ変化し、移動手段が徒歩から車へ、遊びがゲームへと身体を動かす機会が減ってきています。社会背景の変化をとらえ、保育の工夫しながら、子どもたちの体力作りをし「つくば登山」を継続してまいります。



昭和61年度つくば登山



令和5年度つくば登山

ロボットや業務省力機器、今よりこつてくる?



マッスルスーツについて

介護施設で使われるロボットは、移動・移乗支援、排泄、入浴、見守り支援等々、現在多くの目的に合わせ開発・導入されています。青



嵐荘特別養護老人ホームにおいても今まで多分野のロボットを試用導入してきましたが、今回は移乗支援を目的とした「マッスルスーツ」という介護ロボットについてお話をさせて頂きます。

「マッスルスーツ」は空気を動力として、腰の曲げ伸ばし時に最大25kg程のアシストを行う装着型のロボットであり、当事業所においては2017年9月より2台の試用を開始しました。また2018年12月から『茨城県ロボット介護機器普及支援事業』の指定を受け、5台を新たに導入し、移乗介助時やリネン交換時の効果測定を行って参りました。

実際の効果については腰の曲げ伸ばし時に一定の効果は得られたものの、機器の重量や装着時の負担等使用者への負荷が予想以上に大きく、残念ながらその後の導入が続かない結果となりました。その反面、使用者に制限の少ない「移乗用リフト」の導入が進む結果に繋がり、現在はご利用者と職員両面で安全に移乗支援を行う事に繋がっています。

以上、簡単な報告となりますが、より多くの機器を比較する事で、多くの選択肢を持ち、より良い機器の選択に繋がる事が実践から実感できました。

(青嵐荘特別養護老人ホーム 石川)

ロボット掃除機ルンバ

福祉業界の事業所では人手不足が慢性的な問題となっており、当施設も業務負担軽減が課題となっていました。そんな中、宇留野理事長にご紹介いただいたことをきっかけに、平成26年6月よりロボット掃除機ルンバを導入致しました。その後、施設の建て替え等に伴い機器の追加購入を行い、現在では5台のルンバを稼働させています。

ルンバ導入による波及効果としては、職員の床清掃に係る負担の軽減と時間の短縮が挙げられます。従来の居室清掃は一部屋10分程掛かっておりましたが、ルンバを用いた場合は準備等を踏まえても3分程しか掛からず、今まで清掃に充てていた時間の残り約7分でその他の業務を行えるようになりました。ルンバを導入したおかげで、清掃範囲の拡大や利用者支援の充実化に繋がっています。

限りある人財でより良いサービスを提供していくには、当施設ではルンバは必須な機器となっています。定期的なメンテナンスの実施や消耗品の交換、買い替え等の手間や費用は発生しますが、今後ルンバを活用して効率的に時間を使い、利用者支援に努めたいと思います。

(青嵐荘療護園 村上)



見守りカメラの活用と業務省力化

芳香会病院青嵐荘療育園は、「芳香会NEXT 50 芳香会病院2020建替事業」として新築建替えを行いました。

新築物は、建替え前施設よりも2倍の広さとなるので職員の動線が不安でした。そのため業務省力機器の導入と業務改善について検討し、導入した業務省力機器の一つが見守りA-カメラシステムです。

見守りA-カメラは、ナースコールシステムやスマートフォンと連動し、ご利用者個々の危険な動作を検知しコールします。また、ナースセンターの大型モニターでご利用者の様子をリアルタイムで観察することが出来ます。そのため、ベッドからの転落などの危険行動や身体の状態の変化を、以前よりも早く気付くことができるようになりました。また、離れた場所で見守り・介護を行っていても瞬時に状況を知ることが出来るため、見守り対応職員の動線が短縮されました。

新しい機器であるため、職員によつては機器を理解し使用方法を覚えるのに時間がかかるといった課題はありますが、うまく活用すれば職員の負担を軽減できると考えております。今後も新しい機器を積極的に活用しご利用者の皆様が安心して生活できる場を提供していきたいです。

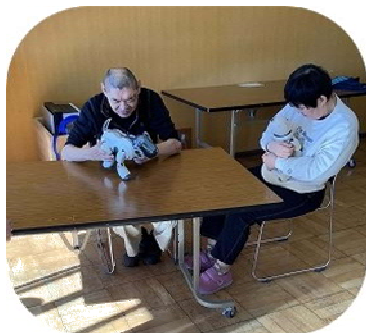
(芳香会病院青嵐荘療育園 齋藤)

路のとう舎におけるaiboの導入

青嵐荘路のとう舎ではご利用者の高齢化・重度化対策の一環として、既存の日中活動への参加が難しいご利用者が活動参加できる機会を増やすことを目的として、平成28年にaiboを導入しました。シャープな見た目の「チロル」と丸いフォルムの「ころ助」の2体です。



aiboは、触れたり話しかけたりすると音（言葉）・ランプの色やしぐさで感情を表現します。動きがコミカルで音楽に合わせてダンスするなど見ているだけでも楽しむことができます。ご利用者の反応は積極的に触れたり話しかけたりする方、笑顔で見ている方、興味を示さない方等等々です。職員と一緒に関わり、ご利用者の言葉がaiboに伝わらないときには介入するなど楽しんでいただけるように工夫しています。aiboがいると穏やかな空間を作ることができ、利用者の気持ちの安定にも繋がっているのではないかと感じています。



今後もご利用者が楽しめる活動を提供できるように努めていきたいと思っています。
（青嵐荘路のとう舎 佐々木）

PARO（パロ）と一緒に笑顔溢れる日常を

2022年12月、青嵐荘つくし園では、茨城県障害福祉分野のロボット導入支援事業補助金を活用して2体目のPAROを迎え入れました。その目的は、コロナ禍におけるご家族との交流不足や行事の制限に対応することでした。そして、ご利用者の生活をより豊かにし、癒し効果やコミュニケーションの促進を期待しました。PARO（パロ）はギネスブック（2002年）に認定された「世界でもっともセラピー効果があるロボット」であり、個別の名前で呼ばれることで、自分の名前を覚え、感情表現や動物らしい行動で応えます。



ご利用者の皆さまが「はなちゃん」と名付けたPAROは存在感が大きく、絆を深める一役を担っています。毎朝、「おはよう。はなちゃん！」と笑顔で語りかけ、ブラッシングなどの世話も欠かさず行い、これが豊かな交流のきっかけづくりとなっております。

PAROの導入により施設内の雰囲気は一段と温かくなりました。ご利用者同士が共有する笑顔が日常となり、PAROはその一部として欠かせない存在となりました。今後は個別支援計画にも取り入れ、ご利用者一人ひとりの生活の質の向上に努めていきたいと思っています。
（青嵐荘つくし園 坂本）

ベビープレスの導入

牛ヶ谷保育園ではSIDS（乳幼児突然死症候群）対策として、0歳クラスの児は5分おき、1歳クラスの児は10分おきに、入眠中の呼吸確認をしています。しかし、保育士から「確認しても次の確認までの間に急変しないか不安だ。」との意見があり、2020年に保育士の心理負担軽減を目的としてベビープレスを導入しました。これは、無呼吸時にアラームが鳴るだけでなく、胸郭が上がる度に機械音が鳴ります。

現在は4台を常備し、心疾患や痙攣の既往がある児、呼吸状態が不安定な児などに使用しています。保育士からは「確認と確認の間の時間も、機械音を聞くと無事なんだと安心する。」「目視の他に音でも確認できるので安心だ。」との意見が聞かれています。多数の児が眠っている午睡の時間は、記録物を書いたり、会議をしたりと、保育士にとっては非常に貴重です。その時間を、不安なく有意義に使えるようになりました。今後は台数を増やし、6ヶ月未満児や入所したての乳児などにも使用していくことで、より安心安全な保育を提供できればと思います。
（牛ヶ谷保育園 青柳）



～外国人労働者の挑戦～

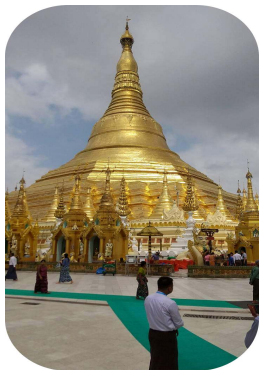
～ミャンマー視察について～

8月下旬に技能実習生の採用面接及び現地視察を目的として、法人内職員5名にてミャンマーに行ってきました。芳香会には既に数か国の外国人就労者が在籍しています。

ミャンマーとのコンタクトは初となります。2021年のクーデター以降、治安情勢の悪化が伝えられていたため入国前から不安がありましたが、滞在先の旧首都ヤンゴンには、夜間外出禁止令が継続中で稀に銃を携えた軍人の姿こそみられたものの、物々しい雰囲気はなく比較的平穏な街並みでした（地方では国軍と民主派勢力との戦闘が頻発）。

面接では11名の実習生候補者と顔を合わせましたが、分かりにくいであろう日本語でのやり取りでも懸命に考え何とか答えようとする直向きさと共に、穏やかで控えめな印象を覚えたため、日本人との相性の良さを感じました。結果は2事業所で計4名の採用となりましたが、採用実績のない国の人材確保にあたっては、現地に直接出向いて文化や価値観等を体感することが重要であると認識する機会ともなりました。押さえておくべき教訓として今後に活かしていきます。

（青嵐荘療護園 大塚）

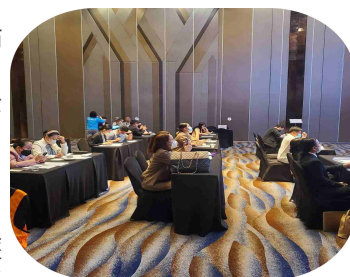


～フィリピンEPA看護師候補者の説明会～

芳香会病院青嵐荘療育園では、病院メインスタッフである「看護師育成」と「日本の福祉を世界に広げる」ことを目的に、2021年からフィリピンEPA看護師候補者2名の受入を行っています。新型コロナウイルスの影響で継続的な受入ができていませんでした。しかし、2023年7月に4年ぶりとなる現地（マニラ）での面接会が開催され、EPAを含む6名のスタッフで参加することができました。

久しぶりの現地マニラでは、中国資本の影響が強くなっている様子がみられ、面接会への参加者はEPA制度の過去最少となる17名にとどまりました。コロナ禍を機に国際的な人材獲得競争が激しくなっており、円安による収入減も影響したとみられます。そんな逆境の中での参加者たちは、「日本が好き」「日本で看護師になりたい」という意欲の熱い方たちばかりでした。福祉・医療人材の不足は、私たち芳香会でも直面している深刻な課題です。しかしこの分野で働く価値を再認識する契機でもあります。日本の福祉の魅力を伝えることを小さな一歩としてこれからも前進し続けてまいります。

（芳香会病院青嵐荘療育園 川島）



～日本語の先生と外国人就労者の学び～

芳香会ではインドネシアやフィリピンなどの外国の方が約40名働いています。日本語の習得は日本で生活するだけでなく仕事をする上でも必要になってきます。そのため芳香会では、日本語の習得を必要とする外国人職員を対象に、週に1回、4時間から6時間ほど日本語講師による授業を行っています。

芳香会には5名の日本語講師が在籍しており、曜日ごとに日本語の授業を担当しています。先生によれば、外国の方は入国前の日本語研修や獲得レベルにばらつきがあることから、入職後は一定水準の日本語能力の取得が求められるとのこと。また、他の先生からは、日本語支援で意識していることは、授業内では一方的に教えることはせず、自分で課題解決をする力を身に付けてもらうことと話がありました。

日本語を学びながら、日本での生活を楽しんでいただければと思います。

（会報誌作成委員会 結城）



※写真はお茶会の様子です。



社会福祉法人 芳香会 事業所トピックス



『日本社会事業大学社会福祉学会賞(木田賞)を受賞して』

茨城県地域生活定着支援センター



本年6月24日(土)に開催された第61回日本社会事業大学社会福祉研究大会にて「日本社会事業大学社会福祉学会賞(木田賞)」を受賞しました。

この賞は、「実践としての社会福祉の理論的体系化」を追求された木田徹郎元教授の名を冠し、社会福祉の理論研究および実践の奨励を図ることを目的として設けられたもので、地域生活定着支援センターにおける実践と社会福祉研究所における研究活動の両立が認められました。

「人生100年時代」と言われる昨今、その折り返しである50歳を迎える年にこの賞を授けられたことは、「残りの半分の人生も、福祉実践の場に愛情と知力を捧げよ」とのお告げであると理解しました。人生の後半戦も、社会の福祉のため、引き続き実践と研究活動の両立に身を捧げたいと思います。

(酒寄)



『くらしに役立つ講演会』

結城市南部地域包括支援センター青嵐荘

地域包括支援センターは、地域にお住いの高齢者の「総合的な相談窓口」となります。当センターでは、健康面や生活全般に関する相談を受ける中で、権利擁護の活動「くらしに役立つ講演会」を毎年開催しております。



今年度は、「人生会議(ACP)」をテーマに開催しました。ACPとは、将来の変化に備え、本人を主体に、ご家族や近い人、医療職などがチームになって、本人を支援する取り組みです。参加者から「普段考えないから、これからを考える良いきっかけとなりました」等のご感想を頂くなど、実りある時間になったかと思います。当センターとして、今後も地域の皆様のためになるような企画をしますので、ご興味がある方はぜひご連絡ください！



(織原)

『キッチンカー初来園！！』

青嵐荘落のとう舎

落のとう舎では、ご利用者個々の障害特性や希望により、空き缶潰しや内職作業・運動等の日中活動を行っております。そのような中、ご利用者がワクワク感を感じ、心から楽しさを味わっていただく機会を設けたいと思い、日中活動の時間で初めてクレープのキッチンカーに来園いただきました。



みなさん初めて見るキッチンカーに心を弾ませ、食べたい物を自分で選び注文する楽しさや、グラウンドで美味しい物を食べる喜びに笑顔が溢れていました。また普段は列に並んで順番を持つ事が苦手な方も、このイベントを通してマナーを学ぶ機会にもなりました。

これからもご利用者に楽しんでいただける活動を企画していきたいと思います。

(籾山)



芳香会活動報告

障害者福祉セミナーを 開催いたしました

10月24日(土)オンラインにて第6回障害者福祉セミナーを実施しました。講師の国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の根本氏に『高齢知的障害者支援における健康支援のススメ』というテーマでお話いただきました。当日は、約60名の方が参加し、講師の根本氏からの質問に回答したり質疑応答など相互のやりとりが積極的に行われていました。沢山の方にご参加いただき、ありがとうございました。

合同植栽活動を行いました

11月1日(水)上大野小学校の2・3年生15名と合同で花壇の植栽活動を行いました。当日は少し汗ばむくらい陽気で、芳香会職員18名とともにビオラの苗640株を植えました。また、古河ケープルテレビの方に取材していただき地域の方に合同植栽の活動を知っていただく機会となりました。



交通安全講習会を 開催いたしました

11月16日(木)有限会社並木保険企画様を講師にお招きし今年度の交通安全講習会をZoomにて開催いたしました。昨今高齢者の運転ミスによる交通事故が全国各地で発生していることから、今回の講習

会は送迎を担当している高齢職員を対象に実施いたしました。当日は18名の職員が参加し、高齢者が起こしやすい事故や運転中に注意するポイント等を映像や資料を見ながら学習しました。今回学んだことを日々の業務に役立て、今後も事故のないよう職員一同取り組んで参ります。

『Kogaインクルーシブフェスティバル』に参加しました

12月2日(土)古河市とねミドリ館で開催された『Kogaインクルーシブフェスティバル』に蒔のとう舎のご利用者が野菜・作品の販売で参加、つくし園のご利用者が30分間の和太鼓演奏で参加しました。また、つくし園は作品コンクールに応募した作品が佳作を受賞しました。



芳香会スケジュール

- 2月上旬 苦情受付体制委員会主催 第2回法人内研修
- 2月22日 予算・事業計画ヒアリング
- 3月2日 理事会
- 3月上旬 新任職員・随時採用職員研修会
- 第2回福祉サービス苦情解決第三者委員会
- 3月下旬 評議員会
- 第6回給与担当事務局学習会
- 令和5年度入社式・辞令交付式



編集後記

本格的な冬の到来です。セブンのおでんが恋しい季節になりました。しかし最近ではコロナ以降おでんを提供している店舗を見つかるのも難しくなりました。コンビニの様々な役割を考えると提供する事も大変なのでしょうね。ちよっと寂しいです。(光)

「紅葉狩り」に行ってきました。例年より色づきが遅かったようでしたが赤や黄色に色づいた木々がとても綺麗でした。年齢のせいか、自然の美しさに心癒される機会が増えました。(礼)

年末年始に新幹線を利用する方もいると思います。JR東海が建設しているリニア中央新幹線は、2027年に東京と名古屋間で先行開通し、その後2045年に名古屋と大阪間で開通する予定です。時速500kmで走行することができ、東京と大阪間を約67分で移動できる見通しです。乗るとどんな感じなのかな。(剛)

前号でレモンが実った話をしましたが、黄色くなるまでに2カ月ほどかかり先日ようやく収穫を迎えました。樹高は低いのですが13個も実っていたので驚いています。来年はもっと実が生りますように。(麻)

社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会
〒306-0201 茨城県古河市上大野698
TEL 0280-97-1027 (代)
FAX 0280-97-1112



※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。

